

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価で2項目であったA評価が、最終評価では6項目となり、保護者アンケートや外部評価でも学校教育活動に対して高い評価を得ることができた。全職員が「学校教育目標を念頭に置きながら児童に寄り添うことを第一に考えて日々の教育活動に取り組んできた成果である」と考える。 「時を守り 場を清め 礼を正す」は達成できていると自己評価した児童が8割に達したが、実際の行動を見ると時間を守れていない現状があった。また「履物そろえ」や「挨拶」は家庭での評価が低く、日常的に実践できていないことが窺えた。学校での取組内容を精査していくと共に、保護者と共有して理解と協力を得ながら目標達成を目指していく必要がある。 今年度から重点目標に掲げた「自分で考え、自分で決める」をより強く意識し、生徒指導や教育相談を始め、様々な支援・指導場面に取り入れていくことで、児童の当事者意識や主体性を育てていきたい。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	<p>全児童に未来社会をしなやかに生き抜く力（主体性・当事者意識・確かな学力）を育む</p> <p>～「時を守り 場を清め 礼を正す」を土台に、「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」指導・支援を手立てとして～</p>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>○「時を守る」⇒「時間を守る」 ○「場を清める」⇒「無言無音そうじ」 ○「礼を正す」⇒「あいさつ・返事」の指導をていねいに根気強く行う。</p> <p>○「自分で考え、自分で決めて、自分から行動する」⇒伴走支援の言葉かけで対応する。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）						
●学力の向上	○児童が主体的に学習に取り組める授業づくり	○校内研究に主体的に当事者意識をもって取組み、全授業者が、学習課題を立てた単元学習を実践することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における、学習課題を立てた単元づくりについて効果的に学べるよう参加型等の職員研修の場を設ける。 昨年に引き続き、「ミニ研」制度を継続し、職員間で授業公開する中で研鑽を積む。 負担にならないように、校内研の時間に学年単位で教材研究をする時間を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間で「ミニ研」の計画を立てており、2学期以降に本格的な授業公開ができた。2学期終了時点で50回の授業公開を行い、全員が学習課題を立てた単元学習に取り組むことができた。 月1回の校内研究の多くを単元づくりの時間として設定することで、教材研究をしながら自身の授業実践の準備を進めていくことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを主体的な学び者とするための先生たちの学びの意識が素晴らしい。先生たち自身に主体性を感じる。 働き方改革が進まないとも聞いている。時間が取られるとどこで負担にならないよう気をつけたい。 	まなび部（研究部）
	○児童の発達段階に応じた、自主性・主体性を育む家庭学習の指導	○「自分に必要な内容を考えて家庭学習に取り組んでいる」と答える児童を80%にする。	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、宿題に自主的に取り組む習慣づくりを重視する。毎日の宿題確認、家庭でできない児童への支援を行う。 中学年からはeライブラリの難易度や回数・量を児童自身が選択できるようにする。 高学年からは宿題を週単位で課すことで取り組む時期を選択できるようにすると共に自身に必要な学習を考えさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部会や神野先生を招いての拡大四部長会を経て、小学校6年間の成長に合わせた系統的な家庭学習モデルを作成した。今年度は、来年度からの本格実施に向けた試行期間であり、各学年の実態に応じて宿題や自学を課した。 成果指標に掲げた児童アンケート「よく当てはまる・当てはまる」の割合が、86%であった。教職員においても89%が家庭学習の工夫をしていると回答した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの意識は86%と高いが、保護者の認識が低いのがもったいないと感じる。実際、「学校の考えは何となく知っていたがはっきりとは分からなかった」という声も聞かれた。 「何のための家庭学習か」を問い直し、発達段階的に自由度を高めていく取組は学校の教育姿勢とよく合っている。これまで以上に方針を保護者や地域に周知できるとよいのでは。 	まなび部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を積極的に行ったと回答する教師を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「ほめほめタイム」で、週に5人以上の児童を紹介する。 命や人権について多様な考えに触れることのできるよう他学級で心に響く話をする。 平和週間等には、児童が当事者意識をもって考えることのできる取組を行う。 各種避難訓練は当事者意識をもって取組ませ、自分の命を自分で守ることのできる資質能力を育む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週に10人程度紹介した「ほめほめタイム」や学年を超えて計画的に講話を行った「いじめ・いのちの日の話」、各学級での日々の取組等によって自他を尊重する心が育ってきた。成果指標に掲げた項目について職員の肯定的回答は100%であった。 人権集会では、1・3・5年生による発表を行ったり、全校でピンクシャツデーに取り組んだりし、お互いの人権を守る意識を高めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な取組がなされている。職員の意識も高い。 子ども同士ふざけ合う中で他人の持ち物を池に落とすという事案があった。先生の支援で子供が真摯にそのことを振り返り、反省して互いに自分から謝るといったこともあった。何かあっても自分で気付き行動を改めることのできる児童の姿を見ることができた。 	こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている」と答える児童を90%以上にする。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月「こころのアンケート」を実施し、児童の心の状態を把握する。記載内容には全て対応し、早期解決を図る。学年ノートで簡易報告をする。 教育相談週間を設定し、全児童との相談時間を設けることで事業の早期発見につなげる。 気がかりな件については個別対応を継続し、毎月の生指相会議で職員の情報共有を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「友達と楽しく学校生活を送っている」の肯定的回答が94%、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的回答が89%であり、成果指標を達成することができた。 新たに教育相談週間を設定したことは、児童と教職員の関わり方により効果があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間を設けてすべての子ども達と対話の時間を設定しようとしていることが素晴らしい。教育相談部をはじめ、先生方からの要望でこの取組が実現したと聞き、先生達の意識の高さを感じた。 	こころ部
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「歩いて登校している」と答える児童を92%以上にする。 ○「週1日以上外で元気に遊んでいる」と答える児童を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会を中心に、全校放送で呼びかけたり、登校を促すような取り組みを実施する。1・2学期末に、歩いて登校できた児童を挙手で確認する。 運動委員会を中心に、スポーツチャレンジ週間を設定する。1・2学期末に達成した児童の数を確認する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会を中心に「歩いて登校」を促す取組を行うことができた。児童アンケートでは、93%が歩いて登校できていると回答した。保護者の肯定的回答も94%で、家庭の理解や支援によって効果が高まっていることが窺える。 週に1日以上外で遊ぶ児童は76%であった。場と時間の少なさは課題である。3学期には運動委員会を中心にスポーツイベント週間実施し、スポーツに親しむ機会を設けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 大規模校の子供の数に対して遊具が少ない。「外で遊ぶのは楽しい」と思えるような遊具が欲しい。 「歩いて登校」を推奨したり、日常のちょっとした運動の機会を増やす環境について積極的に考えたりするなど、課題解消に向けて今後の取組にも展望が見える。次年度に期待したい。 	からだ部
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	<ul style="list-style-type: none"> データの共有化や資料の整理、職場環境の整理整頓を進め、業務の効率を上げる。 事業の早期対応と徹底対応により、困難事案にならないようにする。 長期休業中の研修は効率的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間外業務月平均は25時間であった。昨年の平均29時間から4時間削減できている。しかし、職員間での差は大きい。 県設定の目標には到達できなかったものの、92%の職員が5日以上を取得できている。 月1回の衛生委員会の開催により職場環境を見直すことができた。途上ではあるが、業務量を削減する話し合いも進んでいる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校は努力されているが、毎年自己評価が高くならない。現実として、これ以上に業務が大幅に改善するのは難しいのではないかと。 大規模校なのに人が足りていない。予算が足りていないことを行政に解消してほしい。学校運営協議会として意見を述べさせていただき、敢えて評価をCとした。 	教頭
●特別支援教育の充実	○個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた個に応じた指導・支援を行う。	○個別の指導計画に取組や成果を定期的に記入し、指導・支援に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 生指相会議で共有と記録の時間を取り、100%記録できるようにする。 学校生活支援員、特別支援学級支援員の業務記録を回覧することで児童の状態や支援、その効果を共有する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生指相会議で共有と記録の時間を取ることで、ほぼ100%の記録ができるようになり、業務改善と情報共有を同時にすることができた。 学校生活支援員の記録を担任、管理職、特別支援COが回覧することで、児童の状態や支援、その効果を共有することに繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 記録をきちんと取って、多くの職員で共有することは子ども達の適切な支援にとって有効であると思う。記録を書くことにも読むことにも時間をとられると思うが、今後も続けていってほしい。 	こころ部（特別支援CO）

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）						
◎志と誇りを高める教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○自分たちでルールメイキングを行う	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用しながら、学期終了後や1年後にどんな自分になりたいのかを考えたり、振り返ったりする機会を設ける。 形骸化していた「みんなのきまり」や「レインボー作戦」等を自分たちで内容を見直し、自分たちのことは自分たちで決める大切さや良さを体感する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標についての肯定的回答は86%であった。各学期に学習面・生活面について振り返り、次学期の目標設計につなげる流れが定着してきた。 「いのち」「じんけん」「ほうりつ」をキーワードに、自分の行動を振り返り考える指導を継続してきた。特に「レインボー作戦」「廊下歩行」に関して児童同士の話し合いを通して、自分たちで決めることの大切さを実感する姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答86%に対し、保護者が67%と低かった理由は、家庭で夢や目標について話す機会が少ないことが原因かもしれない。4年生の「10才の誓いの式」では、それぞれがしっかりと自分の夢ややりたい姿、やりたいことを語っており、子どもなりに将来にむかって目標を立てている姿を見ることができた。 	指導教諭・主幹教諭 くらし部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートや関係者評価において学校教育活動に対して高い評価を得ることができ、ほとんどの項目がA評価となった。学校教育目標達成に向けて適切な取組ができた成果であると考えられる。 学校改革の必要性を実感したことで、1年かけて職員一人一人の意識改革が進んだ。特に学校運営の中核となる4部会においては、各部がこれまで当たり前としてきた指導や活動を問い直す話し合いを行い、「主体性、当事者意識、確かな学力」を育む実効性のある取組を模索することができた。 BもしくはC評価であった3項目「学力向上」「健康・体づくり」「業務改善」を含め、4部会それぞれにおいて課題を明らかにすることができた。①家庭学習の意義・取組の周知強化 ②子ども主体の行事への転換推進 ③体力づくりのための環境の工夫と運動量の確保 ④ルーティンワークのための体制づくりに加え、C評価であった業務改善については次年度に向けて見直しを進め、重点取組を策定していきたい。
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------